

真宗大谷派  
東本願寺  
shinShU Otani-ha  
Higashihonganji

どう  
ぼう  
しん  
ぶん

同朋新聞

1

Vol. 818

January  
2026

Dōbō Shimbun



- 2・3面 ● 新春対談 大谷暢裕門首×木越渉宗務総長  
8面 ● 特集 帰敬式の願いをたずねて  
10面 ● 新連載 他力の庭 ―東本願寺の庭師コラム―



全ての人に届きたい

今月の写真

『同朋新聞』リニューアル

『同朋新聞』は、創刊から63年の歴史を有し、現在、毎月約75万部を発行しています。本紙の配布・配信を通じて、読者の皆さまの暮らしに確かな拠り所をお届けします。お寺の同朋の会やご家庭でご活用いただき、1人でも多くの方にお勧めください。  
(大谷暢裕門首:右 木越渉宗務総長:左 和敬堂屋上にて)

新連載

## 英語で味わう 正信偈の世界

マイケル・コンウェイ  
(大谷大学 文学部真宗学科 准教授)

### しょうしんねんぶつげ 正信念仏偈

英訳 「Verses on True Acceptance through Recalling the Buddha」  
和訳 「<sup>ぶつだ</sup>仏陀を思い出すことをとおして、今、私が生きているこの世界を  
あるがままに受け入れることに関する詩文」

第一回

宗祖親鸞聖人が、真宗の教えの要を七字一句の偈文に綴った「正信偈」。その味わいについて、新しく連載を担当させていただくことになりました。今月は、自己紹介に加えて、簡単に連載の趣旨と予定についてお話しします。

私は、アメリカ・シカゴの郊外で、大家族の末っ子として生まれ、賑やかな子ども時代を送りましたが、10代に入ってから、種々に悩み始め、20歳になった頃に人生に大いに躓きました。その苦しい中、真宗大谷派と縁の深いシカゴ仏教会を訪れ、念仏の教えを聞くことによって新しい世界の見方を教わり、新しい方向に歩み出すことができました。

その6年後、宗派の関係学校である大谷大学大

学院の修士課程(真宗学専攻)に入学し、真宗大谷派の教師資格を取得するとともに、真宗学の研究を進め、博士課程を終えました。

現在は、大谷大学の真宗学科の准教授として、学生とともに親鸞の思想について学び続けています。国際コースのゼミでは、学生と、「正信偈」の本文と英訳を並べて考察することによって、親鸞の思想の真髄に迫ろうとしています。

英訳をとおして、親鸞が伝えようとしていたことの輪郭がクッキリし、より鮮やかに見えてくることが多いと感じています。また内容の濃い仏教用語が連続して述べられる漢文の文章を英語に直すことは、難解な言葉の意味を吟味し、明瞭に表現する

重要な機会になります。

そこで今回の連載では、私が親鸞の思想を受けとめて作成した英訳を読者の皆さまにご覧いただきながら、その英訳の実践をとおして得た気づきと、感じた課題についてお話ししたいと思っています。親鸞聖人が「正信偈」において示された言葉が、現代の私たちにどのようなメッセージを持っているかということと一緒に確認していきたいのです。

「正信偈」には合計百二十句があります。これから毎月英訳を掲載し、原文の意味と英訳の語句について解説していきます。

親鸞聖人が「正信偈」において示した真実の世界を、ともに味わっていきましょう。

同朋新聞  
どうぼうしんぶん

1 Vol. 818  
January 2026  
月号

発行所 真宗大谷派宗務所 代表者 木越 渉  
編集／東本願寺出版(真宗大谷派宗務所出版部)  
〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上る  
TEL.075-371-9189(東本願寺出版)

購読料／無料  
送料／1部 1年1,650円  
(1,500円+税10%)※部数により変動  
振替口座番号／01000-6-27404  
加入者名／東本願寺出版部

『同朋新聞』を毎月ご自宅に  
お送りすることができます。  
ご希望の方はこちら





ただ聞かせてもつています。今朝のお話は、浄土真宗の信心はどういうことか、といった話でしたね。どれも本当にありがたいお話です。

―― 毎朝、晨朝に参拝されている方と「正信偈を一緒に唱和されていますね。」

門首 それが晨朝の楽しみでもありません。毎日参拝されている方もおられますから、私もしっかりと「崇敬の役目を勤めなければ」と考えます。また、私の妻であるサチカの母もブラジル別院の「おあさじばあちゃん」と呼ばれるほど、毎朝お参りされていました。晨朝参拝が身に付くと、朝起きたらお参りをしなくてはならないと気が済まないと思うそうです。

それで、日本に来てからサチカも毎朝晨朝に出て、たくさんお友達ができました。その中のお友達の一人が90代のおばあちゃん、毎朝お参りに来ておられました。その方は、「私は行くところ(本山)があつて帰るところ(家)がある、これが一番仏の幸せなこと」と言っておられた。そうでサチカは本当に身に染み込ませていました。

―― 今年の8月には、ブラジルで世界同朋大会が開催されますね。各地の同朋の方が集われますし、門首も楽しみに方々です。

### 海外の真宗門徒との交わり

―― 門首は、ブラジルでご門徒に育てていただいたことを、非常に大事にされていると伺いました。

門首 私は、両親とともに1歳の時にブラジルに渡りました。そこで初めて住んだ場所は、アサイという場所でした。戦前はアサヒ(旭)と呼ばれていた、日系人によってできた街です。そこに建てられた照真寺というお寺に住まわせてもらい、育ちました。そこで出会ったご門徒の方の後ろ姿は、今でも忘れません。

特に、父がつくった声明会のメンバーは忘れられません。毎日、晨朝のお勤めを手伝うために、4、5人ぐらいの方がお寺にいられていました。私が4、5歳ぐらいの時でしたが、今でも、その方たちが一生懸命お勤めされていた声が耳に残っています。みんな日系のおじいちゃんたちでした。それと、もう一つ耳に残っていることはお念仏の声です。「なまんだぶ、なまんだぶ」と口癖のように称えているお念仏が、自然と耳に入ってきました。そういうことが小さい時から思い出です。

木越 当時はどういったご門徒の方が多かったですか。

門首 アサイは街でしたので、近所に住んでおられる方たちは商売をされている方が多かったです。しかし、ご門徒の方の95%ぐらいは農家でした。その方たちはアサイの街からちょっと離れていて、10キロから20キロぐらいの範囲に住んでおられる方々でした。

―― 門首は、門首就任時からかねがね、真宗は世界に開かれた教えであるとおっしゃっておられますね。世界中に南無阿弥陀仏を伝える、良い機会になるでしょうね。

### 世界に開かれている真宗の教え

―― 門首は、門首就任時からかねがね、真宗は世界に開かれた教えであるとおっしゃっておられますね。世界中に南無阿弥陀仏を伝える、良い機会になるでしょうね。

門首 ニュースでは、子どもたちが食べるものがなくて困っている。ああいうのを見ると、本当に心が痛みますし、どうして人間はこういうことしかできないのか。話し合いというものがなぜできないのかと

考えてしまいます。このような時であればこそ、分かち合う心、お念仏の心を広めたいですね。

世界にお念仏が広がることは素晴らしいことなので、なんとか方法がないものかと、頭を絞っているのですが、人間は餓鬼(がき)畜生(ちくじやう)、もう本当にそういうところに落ち込んで、その世界から出たくないんですよ。

どうやったら、人と人との間で思いやりと、いつくしみ心を保ってもらえるようになるのか。なんとかお念仏を届けたいと思います。

そのために、私たち真宗大谷派がやらなければいけないことは何か。まずは足元から、一人でも多くの方にお念仏の心を知ってもらい、その喜びを感じてもらうことができたなら素晴らしいことだと思います。


木越 そうなると、やはり真宗の教えをポルトガル語など多言語化する、そして発信するツールを持つことが大事ですね。宗門では「同朋新聞」が一番大きい情報発信の媒体です。真宗を知らない方たちの手にどうやったら「同朋新聞」を渡していけるか。翻訳し、多言語で発信していくことも重要な課題です。

門首 親鸞という方を海外の方たちは誰か知らないですよ。翻訳して伝えないと、どんなに素晴らしい言葉でも相手に響かないのではないのでしょうか。

私たちは実際にブラジルに住んでいた頃は、「親鸞聖人」という単語はあまり聞きませんでした。

―― 私たちは必ず親鸞という方が誰であるか知っている前提で話しかけてしまいますね。けれど、そうではない、親鸞聖人のことを知らない方もおられるというこ

門首と総長には、たっぷりとお話しいただきました。対談の全文はこちらから読むことができます。



## 新春 対談



## 木越 渉 宗務総長 × 大谷 暢裕 門首

### NEW YEAR DIALOGUE

今月号からの『同朋新聞』リニユーアルを記念して、大谷暢裕門首と木越渉宗務総長にお話をいただきました。

### 能登半島地震から2年

―― 2024年1月に能登半島地震が発生し、2年が経過しました。門首は、2024年3月に現地にお見舞いに行かれ、昨年6月の追弔法会に出仕(しゅしやう)御親修(ごしんしゆ)されました。

木越 同じ石川県民として、門首が被災地に視察に行かれ、お見舞いをいただいたこと、また昨年6月には追弔法会に御親修いただいたこと、衷心より御礼を申し上げます。能登の地は、真宗の土徳が深い土地柄ですが、地震によって住むところをなくされ、ご門徒がどこに避難されたかわからないというお寺もたくさんある中で、門首に来ていただいたことは、非常に大きな意味を持つかと思っています。

能登の復興については、金銭面の支援も続けてまいります。念仏が途絶えないよう、いろいろな施策を練っています。門首も、能登に行かれた際には、ご門徒と交流できたのではないのでしょうか。

門首 1月1日に地震が発生した後、職員の皆さんが能登に派遣されていると伺い、私もすぐに行きたいと思っていたのですが、やっと3月になって現地を訪れることができました。その時は、地震による土砂崩れで住職さんが亡くなられた、珠洲(すず)のご寺院を訪問させてもらいました。私は初めて、大きな地震の被害を目の当たりにしたのですが、言葉では表せないような状況でした。ご子息を亡くされた前住職さんから当時の状況を説明していただきましたが、今、思い出しても、本当に心が痛みます。被災地を回らせていただいて、悲しみ、苦しみ、極地というものは、こういうものだろうかと思いました。

昨年の追弔法会には、家を失ってしまった方もおられる中で、多くの方が集まっている気持ちを起こしていただいたことが本当にありがたかったです。本当に心に沁みる、忘れることのできない法要でした。念仏には力があるんだなということをしみじみ感じさせていただきました。

### 聞法のあゆみ

―― 門首は毎朝、晨朝に出仕されていますが、その後に、御休息所で新門と法話を聞かれて、語り合っておられるとお聞きました。

門首 そうですね。新門の裕は若く、まだまだこれからたくさん時間があるので、さまざまなお出遇いがあるでしょう。しかし、私は、残された少ない時間を過ごしていると思っています。その中で、晨朝法話は、1回15分ほどの短い法話ですから、この時間が私にとっては、本当にベストな時間だと思っています。そして、お話しされる教導の先生も毎日のように変わります。それぞれの方が、それぞれ違ったアングルから見たこと、聞いたこと、感じたことを、浄土真宗の教え、親鸞の教えと組み合わせるようなたちでお話をしています。他の行事や法要があることもありますが、毎朝お聞きすることは叶いません。しかし、特段用事のない限りはできる

※1 門首が法座に出仕するところ  
※2 門首、新門、健役が出仕の前後に控える場所



大谷 暢裕  
1951年生まれ。1952年に父・大谷暢慶氏の南米開教区開教使宛令に伴い家族でブラジルに渡る。2011年健役・開教司教に就任し、2020年7月に第26代門首に就任。



木越 渉  
1957年生まれ。2021年10月に宗務総長に就任。光専寺(金沢教区第11組)住職。

# ひかりを 伝えるひと

―七高僧と聖徳太子

第25回



親鸞聖人がお念仏の教えを自分のところまで届けてくださった師として、生涯大切に仰がれた方々がいます。「七高僧」と呼ばれるインドの龍樹・天親、中国の曇鸞・道綽・善導、日本の源信・源空(法然)。そして「和国の教主」と仰がれた聖徳太子です。親鸞聖人は彼らからどんな「ひかり」を受け取られたのでしょうか。本号では「正信偈」をとおして、源信の教えを振り返ります。

## 源信僧都

四

源信広開一代教  
偏帰安養勸一切  
専雜執心判淺深  
報化二土正弁立  
極重惡人唯称仏  
我亦在彼摄取中  
煩惱障眼雖不見  
大悲無倦常照我

〔「正信偈」真宗大谷派勤行集(赤本) 二八―二九頁〕

### 源信僧都が示したこと

源信僧都の時代、日本にはさまざまな仏教が伝わっていました。日常生活の具体的な心構えを説いたものから、容易にはその意図が理解できないもので、いずれも釈尊の一代に説かれた教えとされていました。これらの中から、源信僧都が注目したのは、専ら称名念仏することによる阿弥陀仏の浄土(安養)への往生でした。

ところが、多くの人には、易しい行よりもより難しい行による方が大きな功德があるのではないかと考えられていました。念仏するにも、専ら称える「専修」と、さまざまな行を併せて行う「雑修」とがあります。さらには、信心を持つ力(執心)にも違いがあるとされていました。世間的には、専修よりも、雑修の方が功德が大きいように思えます。「南無阿弥陀仏」と称えるだけよりも、さまざまな善行を行う雑修の方が達成感も得られるからです。

仏道が世間の日常感覚の延長であるならば、このように考えるのが自然です。多くの仏教者たちも、そのように考えていました。しかし、仏道は、世間を自力で上手に渡っていく方法ではなく、世間以外に出世間という世界があることを教えます。「出世間」は、世間のありさまを問い直す世界です。源信僧都も、母親からの手紙でそのことに気づかされたのです。

源信僧都は、『往生要集』などの著作の中

で、世間の延長で仏教を捉えるべきではなく、仏がこの世界に出現したのは一切衆生を成仏へと向かわせるためだったと示しました。あらゆる衆生を平等に救おうとする仏教が、どのような修行を積めたかで違いを設けるのでしょうか。そこから考えた結果、源信僧都は、雑修よりも、念仏だけを信じる専修の信心の方が深いことを明らかにしたのです。そのことは、専修によって往生する浄土は眞実報土で、雑修による浄土は方便化土であると示したことも表れています。「方便化土」は、浄土の辺地とも称されます。ここを出て浄土の中心地である眞実報土に行くことは難しいといえます。

世間の中にある私は、煩惱のために、ものごとをありのままに見ることができません。そのような私に専修念仏が可能なのは、出世間からの阿弥陀仏のひかりの中にいるからです。そのひかりは私を見捨てることなく常に照らしていることを、源信僧都は明らかにしたのです。



わけみ あきら  
采 晃  
大谷大学文学部  
仏教学科教授  
京都教区近江第25西組  
長光寺住職

次回からは、  
源空(法然)上人について  
たずねていきます。

新連載

# 『観無量寿経』序分に学ぶ<第1回>

## —王舎城の物語①—



つるみ あきら  
鶴見 晃  
同朋大学文学部  
仏教学科教授  
岡崎教区第32組  
善正寺衆徒

親鸞聖人が大切にされた浄土三部経の一つである『観無量寿経』序分には、どのようなことが書かれていて、「今」を生きる私たちに何を伝えているのでしょうか。「東本願寺 日曜講演」の講演録をもとに今号より丁寧に紐解いてまいります。

『観無量寿経』は、親鸞聖人が大切にされた浄土三部経の一つです。「大無量寿経」と『阿弥陀经』とあわせ、阿弥陀仏の本願に基づく未来の一切衆生の仏道を説く経典です。

また『観無量寿経』は、『大無量寿経』が「法の真実」を説いているのに対し、「機の実」を説く経典と教えられています。「機」は、仏法を受けとめる衆生のあり方のことを言います。仏法をたちどころにさとすることができる人もいれば、なかなかさとりが開けない人もいます。私たちはどうでしょう。

『観無量寿経』は、その自らのあり方を知らせ、阿弥陀仏の浄土への往生を勧める経典と言えます。

なぜ私たちにとって自らのあり方を知ることが必要なのでしょうか。それは、浄土に往生することを願われている身であること、私たちがなかなか領けないからです。現代人には浄土という世界そのものが信じられないということもありますが、映画などで見ると現実ではない世界に行ってみたいと思うことがあるのに、浄土にはそう感じられない。それは私に必要な世界であることがわからないからです。

浄土を必要とする自己自身を教えられ、念仏して往生すべき身と領く。『観無量寿経』に学ぶのは、他ならぬ私自身のすがたなのです。

さて、そのように『観無量寿経』に私自身を学んでいきたいと考えているのですが、今回は『観無量寿経』全体ではなく、特に「序分」に学んでいきたいと考えています。

経典の構成は、「序分」、「正宗分」、「流通分」と大きく三つに分けて理解されます。まず、序となる部分が「序分」です。そして、「正宗分」とは、本文のことです。最後に、「流通分」というのは、経典の最後に、説かれた内容をたくさんの人々に広めてほしいと、その

流通をお釈迦さまが仏弟子に託していくという部分です。通常ですと序は「序文」と書きますが、経典の場合は、「部分」、「分けた」という意味で、「序分」と書きます。

序分は、いろいろな意味をもちます。『大無量寿経』、そして『観無量寿経』の序分は、「由序」という言い方をします。なぜその経典が説かれるのか、その理由、そして由縁について明かしている一段になります。『観無量寿経』がどうして説かれるのか、その由縁が「序分」に説かれているわけです。

『観無量寿経』の序分には、「王舎城の悲劇」という物語が説かれています。

お釈迦さまの時代、インドにはマガダ国やコーサラ国という大きな国がありました。「王舎城の悲劇」は、そのマガダ国で起こった事件です。マガダ国は、当時、頻婆娑羅王という王さまが統治していました。この王さまは、さとりを開かれる前のお釈迦さまにもお会いになっており、お釈迦さまがさとりを開かれた後はその教えに帰依をした方でした。

その頻婆娑羅王が、お子さまである阿闍世に殺されてしまったのが「王舎城の悲劇」です。提婆達多という仏弟子が阿闍世に、「お釈迦さまを殺して私が新仏となり、あなたには頻婆娑羅王を殺し、新王となつていただいても歩んでいきましよう」とそそのかしたのです。阿闍世はそれに従って、頻婆娑羅王を幽閉して殺してしまつたのです。

これは古代インドの有名な事件で、多くの仏典でいろいろな形で説かれます。その中で、『観無量寿経』は、この頻婆娑羅王と阿闍世の父子が中心の物語と少し異なっていて、幽閉されてしまつた頻婆娑羅王を助けていた韋提希夫人、すなわち阿闍世のお母さんが主人公になっています。

(続く)

## 濁浪清風



連載コラム 第7回 本願の信心 —本願について

親鸞仏教センター所長  
東京教区東京1組  
本龍寺住職

親鸞聖人は、阿弥陀如来の本願を説いている『大無量寿経』を、「如来出世の本懐」の経であると見定められました。さらにそのことを、「真実の教え」といただき「大乘仏教の至極」であるとも見ておられます。菩提の内実がさまざまに伝えられる中にその内実の無限性(自利・利他の追究の深まり)が、一切の衆生を救い上げること課題とする法蔵菩薩を語り出して来たのだ、ということなのです。それによって、衆生が有限であることに気づくにつれて、菩提への追究が無限の深さを持つことを知らされ、自己の個人的な立場の要求を転じて、「如無限」からの大いなる働きかけ(大悲の如来の本願)を信ずる立場が開かれてきた、ということなのです。

『大無量寿経』に説かれる法蔵菩薩は、願心を深めて、その成就のために、長い時間を思惟して永劫に修行すると説かれています。このことは、この世の次第に従って、因から果への展開で経が説かれているのです。この因果の結果は、大乘の至極としてあらゆる衆生を平等に大涅槃に至らしめる仏土が開示されてきます。この仏土の場所は仏果ですが、その場所から法蔵菩薩の願心が因を起こすのです。すなわち果から因が展開していることとなります。

法蔵菩薩の願心の課題は、決して個人的な問題に尽きないことを示し、人類が尽きるまで歩み続けてやまないものであることを表そうとするもののなのです。それは大乘経典の『華嚴経』の結びに「普賢菩薩一切衆生を救い遂げようとする菩薩」を説き出している課題でもあるのです。

この無限に尽きない菩提心の課題を、法蔵菩薩の願心において語る『大無量寿経』こそが「如来出世の本懐」であるとされるのです。その『大無量寿経』の説法を語り出す教主世尊のお顔が、「光顔巍巍」と輝いていたと言います。そのことを不思議に思つた仏弟子阿難が、「今日、世尊が光顔巍巍とされているのは、何故ですか」という問いを出し、その問いを釈尊がお褒めになったというのです。この釈尊が「光顔巍巍」として説き出した経典こそ、求道心の課題が展開するあり方を適切に教えているのです。それで親鸞聖人は、法蔵菩薩による本願の因果を説く『大無量寿経』こそ、「如来出世の本懐」の経典であると受けとめられたのです。これは果から因へと語り出す経典を、有限なる私たちの自己中心の迷いを晴らす「真実教」と仰ぎ、無限なる果(大涅槃)が、有限の私たちへ平等の救済(大乘仏教の至極)を教えるものとされたのです。

親鸞仏教センターのウェブサイトでも  
本多弘之氏のコラムをお読みいただけます。



## 仏教伝来

朝鮮仏教史への入門  
福土慈穂 著  
インドでの仏教誕生から中国、朝鮮半島への仏教伝播の歴史を分かりやすく解説した様々な時代や地域にわたる東アジア仏教史の入門書。



## 『歎異抄』成立の謎

塩谷菊美 著  
『歎異抄』には親鸞の言葉が記されている」という常識は正しいのか。常識を離れたときに見えてくる『歎異抄』成立の真相に迫る。



## 新装版 教行信証 下

桐溪順忍 著  
真宗の根本聖典である『教行信証』を上・中・下の三巻で解説。別巻では教義上の諸問題を解説する。下巻では、真土巻・化身土巻を解説。



## 目からウロコの仏教入門

ケネス・タナカ 著  
アメリカ流儀で学ぶと、仏教はこんなに楽しくわかりやすい! 海外で話題の入門書が、日本版として登場!



## 法蔵館文庫

女の力 — 古代の女性と仏教  
西口順子 著  
古代・中世日本において女性たちはいかに仏教に心を寄せ、寺に詣で、僧を頼んで祈ったのか。女性と仏教のかかわりの歴史を丹念に解明。

## 女の信心

妻が出家した時代  
勝浦令子 著  
古代から中世の婚姻・出産・育児・家事という女性の日常や死と死後の世界に結びついた習俗と信仰から日本人の信仰を明らかにする。

## 日本人の阿弥陀信仰

伊藤唯真 著  
阿弥陀信仰の教義・歴史・文化・民俗的展開を多角的に考察。古代・中世にかけての変遷、念仏実践・文学・美術・儀礼への広がりを描く。

## 『維摩経』を読む

近世  
長尾雅人 著 桂 紹隆 解説  
大乘仏教の根本思想である「空」や「不二」の法門について明らかにした『維摩経』を、仏教研究の泰斗が分かりやすく解説する入門書。

〒600-8153 京都市下京区正面通烏丸東入 Tel.075-343-0458 Fax.075-371-0458



法蔵館

https://pub.hozokan.co.jp info@hozokan.co.jp 新刊メール配信中!  
お買上16,500円(税込)以上送料無料 表示価格はすべて税込



## 「びゅんびゅんごま」

身近なものを使って、  
お子さんやお孫さんと楽しく遊びましょう！

いろんな形で  
つくってみよう！



【用意するもの】・ダンボールや牛乳パックの底  
・キリ・タコ糸・ボンド・ハサミ

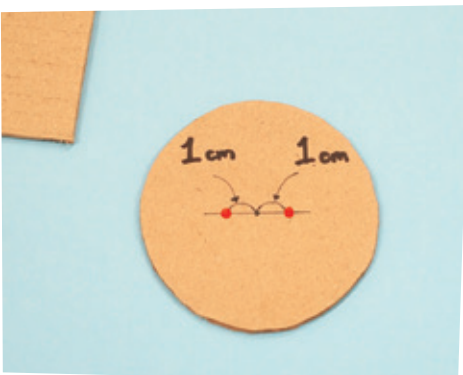
1. ダンボールを、円形なら直径7cm、  
四角なら7cm四方に切ります。  
同じものを2枚作ります。  
タコ糸は約90～100cm。



2. 2枚をボンドで  
貼り合わせます。



3. 真ん中から約1cmのところに  
2つ印をつけます。



6. 糸の両端を持って  
クルクルねじり、引っ張ると、  
びゅんびゅんと音を鳴らし回ります。

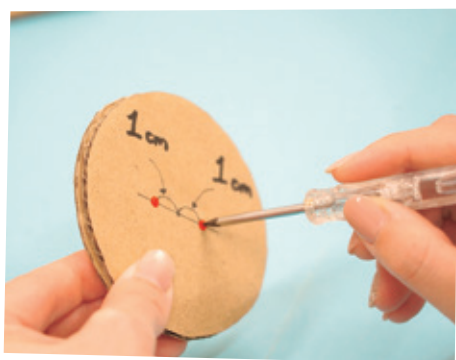


できたー！  
おもしろい音が鳴るね～！

5. 好きな絵を描いて  
タコ糸を通し結びます。



4. キリで穴をあけます。



ケガしないように  
気をつけるのじゃぞ



## でんごんば 子ども会 & 教材紹介

### 東本願寺キャラクターグッズのご紹介

キャラクター  
グッズはこちら→



ひがしほんがん じ 東本願寺には、「鸞恩くん」「連ちゃん」「あ  
かほんくん」というキャラクターがいるよ。  
たくさんの人たちと仲良くなって、親鸞さま  
が伝えてくれた仏さまの教えにふれるきっか  
けになれるように、いろんなところで活動して  
いるよ。  
キャラクターたちのグッズもあるので、ぜひ  
使ってね！



あかほんくん  
動行集  
220円(税込)



ほとけの子風船  
40個入  
990円(税込)



キャラクタークリアファイル(3種)  
各110円(税込)



キャラクター鉛筆  
2本入110円(税込)



## 保育の現場から

いままの日本社会では、地震や大雨などの自然災害の頻  
発や少子化、さらには人と人とのつながりの希薄化など、  
子どもを取り巻く環境が大きく揺らいでいます。

こうした時代だからこそ、あらためて私たち大谷保育  
協会が大切にしてきた「ともに生き、ともに育ちあう」と  
いう願いを確かめ直したいと思います。

「ともに生きる」とは、子ども・保護者・保育者が互いにかかり合い、支え合う中で、誰  
もが孤立せずにそのまま安心して存在できることを意味します。また「ともに育ちあう」  
とは、子どもだけでなく、大人もまた子どもの姿から学び、自らの在り方を問い直しなが  
ら、ともに成長していくことをいいます。そこには、一人ひとりのいのちが尊く、かけがえ  
のない存在であるという、真宗保育が大切にしている仏さまの願いが込められています。

子どもたちが仲間とあそび、泣いたり笑ったり、分かち合ったりしている姿は、私たち  
大人にたくさんの気づきや学びを与えてくれます。そのような歩みをともにすることこ  
そが、私たちの保育の尊い歩みであり、未来をひらく力なのです。

全国の大谷保育協会の加盟園が手を携え、宗派の青少年教化として「ともに生き、  
ともに育ちあう」歩みを重ねています。

こうえきしゃだんほうじんおおたにほいくきょうかい り し ちょう こ が し げ ます  
公益社団法人大谷保育協会 理事長 古賀 成磨

### 大谷保育協会とは？



公益社団法人大谷保育協会は、「本願に生き、と  
もに育ちあう保育」を大切な理念として、真宗大谷  
派に關係する幼稚園・認定こども園・保育所など、  
全国420の施設が加盟している保育団体です。



詳しくはこちら

\*次回は青少年センターです



## 社会福祉法人 寿光会 しょうれんじこども園 楽生・寿光

静岡県伊豆の国市・岡崎教区



今日はね、薄暗い本堂でアニメ  
を見たよ。「仏さまシアター」って  
いうんだ。猿の王さまが出てきて  
ね、やさしい気持ちでみんなを助  
けた、インドのお話なの。ぼくは  
座って、おともだちは寝転んでた。  
みんなちがうけど、みんな一緒に、  
なんか、あったかかった。帰るとき  
に、またちゃんと座っておまいりし  
たよ。外に出たら眩しかったよ。



## こどもの ひとこと

ほとけさまが目をつむっているのはね、  
ゆめをみているからだよ。 3歳 男の子

## こども画伯



だいたい  
題名：おばけのパンやさん

### 今月の画伯

やなぎだ あい か  
柳田 愛花さん  
まんいんじこども園 (京都府)

### 画伯のきもち

なが〜いパン、メロンパン、  
にんじんパンと大好きなパン  
をたくさん描いて、  
オバケのパン屋さんオープン  
しました♡



安本浩樹さん  
(山陽四国教区 安芸北組 専光寺 住職)

帰敬式とは、「仏」「法」「僧」の三宝に帰依<sup>え</sup>し、お念仏の教えを拠<sup>よ</sup>り所<sup>どころ</sup>として生きることを誓う大切な儀式です。宗門では、一人でも多くのご門徒の帰敬式受式を願い、1996年から「帰敬式実践運動」を始め、今年で30年を迎えます。私にとつての帰敬式とは――。今号では、広島のお寺で住職をされている安本浩樹さんに帰敬式の願いについてお話しいただきました。

〔研修部 帰敬式実践運動推進事務室〕

interview

特集

インタビュー

# 帰敬式の願いをたずねて

― 安本さんのお寺で行われている帰敬式の様子を教えてください

お寺の報恩講で2年ごとに帰敬式を行っています。一人ひとりが歩まれてきた人生を思い出し、これからどのような人生を歩んでいただきたいかを考え、法名をおつけします。受式後に「私の人生の大きな節目になりました。住職さんからの言葉と共にいただいた法名を大切にしていきたい」と、お手紙をいただいた時はうれしかったです。生涯にただ一度、感動をともしにできる大切な儀式だと思います。

普段お寺にお参りに来られない方が受式されることもあります。うれしいこと、つらいこと、悲しいこともあったであろう人生の歩みの中で、お寺に参ろう、帰敬式を受けようと思われるのは、よくよくのことでしょう。人生のさまざまなことが仏法と通ずると感じられて、お寺にお参りくださったのだと思います。



真宗本廟での帰敬式

― 生きている今だからこそ帰敬式を受式するのですね

人生は、縁によってまるで波のようにいろんなことが押し寄せてきます。それは帰敬式を受式した方も、そうでない方も一緒です。受式したから、つらいことが

やつてこないかというところではありません。ただ、仏弟子として、仏法に育てられながら歩む人生は、その苦悩に意味が与えられるのだらうと思います。苦しいことが苦しいままにとどまらない。そのことをとおしてのみ、教えられることがきつとあるのです。

帰敬式を受式し仏弟子となった、そのことを日々の中で忘れてしまうことがあっても、なかったことにはなりません。そこに帰敬式という形をもった儀式の意味があると思うのです。お寺のご本尊、真宗本廟での御真影の前で誓った「本願を信じ念仏申す生活」に立ち返ることができる。忘れることがあっても、自分の中に大切なものが呼び覚まされていく。そういう人生の節目としての意味があると思います。

― 帰敬式を縁として、どのような歩みが始まるのでしょうか？

釋(尼)○○という法名は、仏弟子として歩みたいという名のりであると同時に、法名を名のる以前から仏弟子として人生を歩んでほしいと私にかけられていた願いの名であるとも思います。

昔はご本尊のことを「おやさま」と呼びならわしてきました。「親のような心をもつ仏さまが阿弥陀さまなんだよ。いつもあなたのことを大事に願っていてくださるんだよ。だからお念仏申して仏さまの教えを聞いていきましょね」と親鸞聖人が勧めてくださっている。そう語り継がれてきた歴史があります。

帰敬式は、仏法僧の三宝に帰依することですが、その中でも特に僧宝、僧伽(念仏をともにいたしていく人々)によって教えが確かめられてきました。この僧伽があつてこそ、仏法が私たちの生

活の上に明らかになっていくのでしょうか。だから、親鸞聖人はともに聞いていくということをとても大切にされたのです。帰敬式を縁として、これまでつらいことの多かった私の人生を投げ出さないで、こらえ辛抱しながらも今日まで歩ませてくれたもの、私の知らないところで私を支えてくださったものがありはしないか。そういうものを見つめながら歩む人生は深いものになるのではないのでしょうか。帰敬式とは、人生において第二の誕生だと思っています。

お寺や別院で

真宗本廟奉仕で

本山参拝で

さまざまな機会に多様な年代の方が受式されています

帰敬式を受け、法名をいただいて  
親鸞聖人と一緒に仏さまの教えを聞いていきませんか？

帰敬式は、真宗本廟(東本願寺)、全国の別院やお手次のお寺で受式することができます。  
詳しくはお手次のお寺や別院・教務所にお問い合わせください。

＊礼金：(お一人)21歳以上10,000円、20歳以下5,000円  
別院や寺院での受式の際は別途記念品代等がかかる場合があります。

東本願寺公式ウェブサイトで帰敬式の情報を発信しています!!

受式者の声  
紹介

受式についての  
Q&A

チラシや  
リーフレット

詳しくは  
こちら→



このインタビューの全体を  
宗派ウェブサイトでも  
ご覧いただけます。

# 現在を生きる

日本全国のご門徒の方々や各地で開かれている同朋の会を紹介します。



橋爪 美土里さん

「今できることを

何でもやろう」

能登教区 第7組  
佛照寺門徒  
橋爪 美土里さん(75歳)



「駅カフェ みい」にてお客さんの話に耳を傾ける橋爪さん

かつて茅葺き家屋が建ち並び、「日本の原風景」が残る地域として知られた石川県輪島市三井町。その中心部にある「駅カフェみい」をきりもりされる橋爪美土里さんを訪ねた。

輪島市によって整備された「のと鉄道」の元駅舎を活用して、2013年に開業された「駅カフェみい」。以来、地域のお年寄りが集う交流の場となり、橋爪さんは大正琴の教室やフリーマーケットを開催してきた。また、グラウンドゴルフ場でコンサートを企画するなど、地域おこしに努めてきたという。

しかし、2024年1月に能登半島地震が起き、一時、店を閉める。三井町でも多くの家が全半壊の被害に遭った。橋爪さんは自宅を修繕しながら住むことができたが、長らく

病氣療養中だったお連れ合いの政博さんを同年3月に亡くされる。そんな政博さんの姿が心にあるのだろうか、橋爪さんは「動けるうちに何でもやろう、まだやれる、がモットーです」と話す。

2024年3月に再開したカフェには仮設住宅などで暮らす地元のお年寄りをはじめ、輪島市中心部や隣の穴水町からもお客さんが集まるようになったという。加えて、カフェは全国各地からの復興支援活動の拠点にもなっている。橋爪さんは「ひどい目に遭ったけど、いろんな人との出会いもありました」と感謝する。

そんな橋爪さんに「真宗との出会い」を尋ねると、即座に生家の両親の話になった。「父と母は朝夕、必ずお内仏に手を合わせていました」。報恩講などお寺へもよく連れられて行き、その時聞いた節談説教の語りは衝撃的で、今も耳の底に残っているという。

穴水町で生まれ育った橋爪さんは、結婚後、輪島市内の保育所に定年まで勤務した。義母が元気な間は、お寺の仕事をほとんど頼っていたが、退職した頃から自分がお寺に参るようになったそうだ。熱心な聞法者ではないけれど、お寺へ行くと穏やかな心持ちになる、と橋爪さんは言う。

念仏が体にしみ込んでいるのかのように、橋爪さんの言葉の端々から「ナムアミダブツ」が聞こえてくるように感じた。

能登教区通信員  
経塚 幸夫



## お寺の掲示板 第28回

お寺の掲示板に込められたさまざまな願いを、今月の言葉と一緒に毎月お届けします。



きょうしゅうじ 敬正寺 (東北教区 秋田県北組)  
秋田県能代市萩の台5番12号  
やなぎや えつまる 住職 柳谷 悦磨

独りで行く  
孤独で歩め  
悪いことをするな  
求むるところは  
少くあれ  
ブツダ

ブツダの言葉で印象に残ったものを選びました。特に前半の「独りで行く」と「孤独で歩め」を読んで自分なりの答えを考えてみてほしいです。人によって歩んできた人生は異なるので、捉え方が違うものだと思います。もし法語に触れた方が一生懸命に考えて導き出した答えであれば、そこに不正解はないはずです。

敬正寺がお寺の掲示板を始めたのは30年程前のこと。きっかけは、能代大火による寺地移転だったという。ご門徒が多く住む住宅街から離れたことによりつながりが薄くなってしまう、お寺の行事への参加者が少なくなってしまう、とそう。そこで、道行く人たちに掲示板を通じて仏教を伝えたいと思うようになったそうだ。試行錯誤しながら掲示伝道が続けてきたが、今では熱心に見る人が増え、毎月メモをとるご門徒もいるという。

毎月の言葉は、柳谷住職が複数案を考え、それを学生時代から書道が続けてきた坊守の美喜子さんが書き上げるといふ行程で掲示される。どの言葉を選ぶか住職と坊守で見解が分かれることもあるそうだが、坊守の意見を参考にする人が多いそう。工夫している点を伺うと、長くて難しい文章や、断定的な言葉を避け、多くの人が親しみやすい言葉を選ぶように心がけているという。

東北教区通信員  
光井 広顕

仏教の視点から「私たちのいま」に向き合う月刊誌

### 特別企画 南無阿弥陀仏

なむあみだぶつ。今回、この六文字にさまざまな角度から光をあて、南無阿弥陀仏が発する、ゆたかな輝きに会いなおしていきます。

新連載もスタート!

- 土井善晴のお斎の風味をたずねて
- 釈迦発達の八正道



- 地獄・極楽を読み解く —新解『往生要集』
- 後生の一大事を心にかけて —ニューヨークから開教便り
- 仏事作法のひとこま ほか

月刊『同朋』1月号

A4判・オールカラー 60頁  
定価:440円(税込・送料別) / 年間購読:4,400円(税込・送料込)



同朋の会でも! 紙でも電子でも!  
ついに、月刊『同朋』が  
電子書籍になります!

今月号から、電子書籍でも購読いただくことができるようになりました。Kindle (Amazon)や楽天koboなどで購入いただけますので、「紙」でも、「電子」でも、『同朋』をお楽しみください!

詳しくは

東本願寺出版

検索



浄土とは何なのか? 私がそこへ  
行き、生まれるとは一体どうい  
うことなのか?  
浄土真宗の根幹たる教えに問  
いを持ち続けてきた著者があら  
ためて尋ねる一冊。

伝道ブックス94

私はどこへ行き  
生まれるのか

— 往生浄土の仏道 —

亀谷 亨 著 / 新書判 80頁 / 定価:330円(税込)



ご注文・お問い合わせは



075-371-9189

075-371-9211

詳しい書籍情報は

東本願寺出版

検索



新連載

BETSUIN TRAVEL 第1回

# 別院旅行

札

札幌別院は、札幌市の中心部に約9千坪の境内地を有します。明治期の北海道開拓・開教の拠点となり、現在も教化伝道の拠点となっています。創建の歴史は、1869(明治2)年、本山・東本願寺が明治新政府に出願し、翌年、当時弱冠19歳の現如上人がその責任者となり、随員数百数十名とともに着手したことに始まります。境内に残る旧御堂は、1871(明治4)年、越後国光園寺(新潟県新潟市)の古御堂を札幌別院本堂として移築したもので、今年で155年を迎えます。また、現在の本堂は本山と同じく伊藤平左衛門氏の設計により1891(明治24)年に完成しました。札幌別院では、現如上人のご遺徳を偲び、毎月8日に開基現如上人御命日法要、27日・28日には宗祖親鸞聖人御命日法要が勤まり、広く一般にも開放しています。

国内外あわせて55ある真宗大谷派の別院。教化伝道の中心道場として、真宗門徒の信仰の歩みが色濃く表れています。そんな各地の別院を紹介していきます！



## 札幌別院

さかた ちりょう  
坂田 智亮 輪番  
北海道札幌市中央区南7条西8丁目290番  
TEL 011-511-0502



輪番のおすすめ  
スポット



## 鬼はそと 福はうち

北海道札幌市中央区  
伏見1丁目3-11  
TEL 011-520-1414



現如上人の分骨が収められた北海御廟がある藻岩山のふもとに佇むモダンな雰囲気のお食事処。オーナーは札幌別院のご門徒で、昼はさまざまなカレーうどん、夜には極上しゃぶしゃぶやすき焼きをメインにおもてなしをしてくれます。駐車場も広く車でも訪れやすいお店です。



## 経路

JR札幌駅から地下鉄南北線真駒内行に乗車。「すすきの」で下車し、市電外回りに乗車→「東本願寺前」にて下車し、徒歩1分。



新連載

## 教えて住職！

Q

手を合わせて  
合掌する意味って  
なんですか？



A 私たちは人に会ったときや別れの時には挨拶をします。いろいろな挨拶がありますが、仏さまへの挨拶は礼拝と呼ばれ、「合掌(手のひらを合わせる)」もその一つの方法です。

合掌はインドなどでは昔から行われていて、仏教とともに日本に入ってきたようです。インドでは今でも人と会ったときに互いに合掌して「ナマステー」と言います。「ナマス(namas)」は「南無」、「テー(te)」は「あなたに」という意味で、「南無あなたに(=あなたに礼拝します)」という「うやまい」の心を表す作法です。

このようにインドでは、合掌という作法はもともと仏教が起こる以前からあり、それが仏教徒の中でも行われるようになったのです。真宗の教えをいただく者は、ご本尊・阿弥陀如来の前で合掌して、「南無阿弥陀仏」とお念仏を称えます。

真宗門徒の生活は、合掌をもって始まると言ってよいでしょう。真宗門徒にとって合掌は礼拝にとどまらず、阿弥陀如来の呼びかけとそれに応えるお念仏の心が表された形なのです。

庭で働く職人にとって正月は、仕事をせず静かに過ごす時期でした。その分年末はぎりぎりまで仕事をしました。古くなった竹垣を青竹に交換し、松の古葉やモミジなどの落葉樹の残った葉をすべて取り除く。また、雨どい、雨落ちまで全てきれいに掃除することで、庭は春頃まで美しさを保ちます。

家主の方々も年末は大変忙しく、家の修繕や大掃除、おせち料理など万全の準備を整えて新しい年を迎えました。

庭は日々の疲れを癒す場所であると同時に、遠方からのお客様や親戚をもてなすための空間でもあります。

娯楽や食事などさまざまなサービスに溢れ便利な現代。そこを生きる我々にはかつての正月の「招き入れる」風習は時代になく、感われないものに感じられるかもしれません。それでも「ゲストとホスト」がいて初めて成り立つ庭の機能、空間があるのです。お客様を招き入れる準備を代行する庭師業には「裏方としての側面」があります。

## ワンポイントアドバイス

年末に、竹垣を交換すると、青い状態を長く維持できます。節間が長く、まっすぐな真竹は、ホウキの柄や雨どいにも大変便利に使われてきました。タケノコを楽しむのは孟宗竹です。放置竹林が問題になったりしますが、本来竹藪は宝の山です。



涉成園のお手入れの様子

新連載

# 他力の庭

— 東本願寺の庭師コラム —

第1回

## 正月の庭仕事

毎日のお内仏のお給仕のときや、法事や突然の葬儀のときなど、多くの人が感じる仏教・仏事に関する素朴な疑問“ハテナ?”を集め、答え一冊。



## 浄土真宗 仏教・仏事のハテナ?

B6判 120頁／定価：660円(税込)

私は死んだらどこへ行くのか。亡き人と、どこでまた会えるのか…？ 私たちの人生を「南無阿弥陀仏」をとおして見直す大切な節目として、帰敬式の意味について考える小冊子。



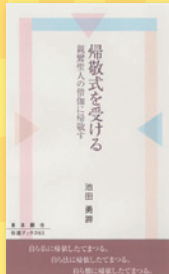
## 人生の点検

— 帰敬式からの生活 —

三島 多聞 著

新書変形判 24頁／定価：110円(税込)

法名とは…僧伽とは…真宗門徒としての聞法の歩みの機縁となることを願う一冊。帰敬式を受けるということの意味と、受式後の生活について考えます。



伝道ブックス63

## 帰敬式を受ける

— 親鸞聖人の僧伽に帰敬す —

池田 勇諦 著

新書判 52頁／定価：275円(税込)

わが身をそのままに受けとめられない「私」自身が、本当に尊いことを取り戻そうと歩みだす誓いの儀式、帰敬式。本書では、仏弟子として法名を名のる意味などをたずねます。



伝道ブックス67

## 三帰依

— 仏教徒の大切なよりどころ —

安富 信哉 著

新書判 64頁／定価：275円(税込)

ご注文・お問い合わせは

東本願寺出版

TEL 075-371-9189

FAX 075-371-9211

詳しい書籍情報は

東本願寺出版

検索



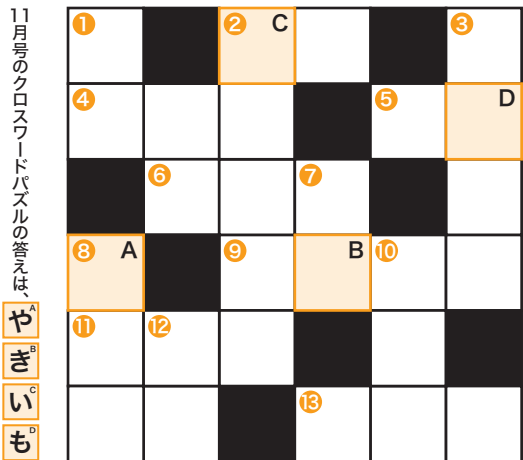
今月号の『同朋新聞』を読んで、

クロスワードパズル

を完成させよう!



「タデのカギ」「ヨコのカギ」それぞれの設問に答え、  
クロスワードパズルを完成させましょう!  
1月号の『同朋新聞』を読むと、答えがわかります!!



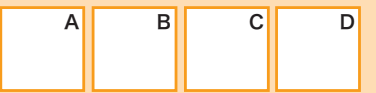
タデのカギ

- ① 本紙の配布・配信を通じて、読者の皆さまの暮らしに確かな〇〇ところをお届けします。(1面)
- ③ 「ひかりを伝えたひと」今月は〇〇〇〇僧都についての第4回目です。(4面)
- ⑦ 「現在を生きる」橋爪美土里さんは、「駅カフェ〇〇」をきりもりされています。(9面)
- ⑧ 「縁一お寺の掲示板」今月の法語は「独りで行くほうがよい 孤独で歩め 悪いことを〇〇〇求めるところは少なくあれ」です。(9面)
- ⑩ 「読者のお便り」今月のタイトルは「初めて読ん〇『〇〇朋新聞』」です。(11面)
- ⑫ あなたのお悩みお聞きます。東本願寺い〇〇ところの相談室 075-371-9280(11面枠下)

ヨコのカギ

- ② 「教えて住職!」今月の質問は「手を合わ〇〇合掌する意味ってなんですか?」です。(10面)
- ④ 「特集」帰敬式とは、「仏」「法」「僧」の三宝に帰依し、お念仏の教えを拠〇〇〇ろとして生きる者となることを誓う大切な儀式です。(8面)
- ⑤ 「てらこや大谷」今月の画伯は〇〇いんじこども園に通う柳田愛花さんです。(6面)
- ⑥ 青少年と共に〇〇〇、共に生きる(7面枠下)
- ⑨ 2・3面は「新春〇〇〇〇 大谷暢裕門首×木越渉総長」です。
- ⑪ 「『観無量寿経』序分に学ぶ」『観無量寿経』は、『大無量寿経』が「法の真実」を説いて〇〇〇〇対し、「機の真実」を説く經典と教えられています。(5面)
- ⑬ 「お東さんインフォメーション」真宗大谷派の精神とス〇〇〇〇の精神を深めることを目的に名誉奉仕訓練を開催いたします。(12面)

答え



※答えはすべて「ひらがな」でお答えください。



●「1面」夏の甲子園に出た小松大谷高校が真宗大谷派の学校だと全然思わず紙面で初めて知りました。わかっていればもっと応援したと思いました。(島根県60代)

●「縁一お寺の掲示板」儀万智さんの短歌はとても共感しました。ふと、遠く離れて住む子どもたちのことを思い出し、なんだか涙が出ました。これからも見守ってほしいなと、あらためて思いました。(愛知県70代)

リニューアル記念 正解者の中から抽選で6名様に「東本願寺出版オリジナル図書カード1,000円分」、4名様に月刊『同朋』をプレゼントします!

郵便はがきにて、①「クロスワードパズルの答え」②「郵便番号」・「住所」・「氏名」・「年齢」・「電話番号」と③『同朋新聞』の感想や紙面に関する要望を添えて、下記までご応募ください。今月号の締め切りは2月10日(火)(当日消印有効)です。

宛先 〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上る 東本願寺出版「クロスワードパズル係」まで

Googleフォームでも応募できます!

右記二次元コードから、必要事項と答えを入力してご応募ください!

※メールでの応募を終了し、今号からGoogleフォームでの受付に変更します。

応募はコチラ



【ご注意】◆当選者の発表は、発送をもって代えさせていただきます。◆個人情報保護法に基づき、個人情報の提供は本紙の発行に限り、それ以外の目的には使用しません。◆感想は「読者のお便り」や「読者のこえ」に掲載する場合があります。◆本クロスワードパズルは、独自のルールに基づいて作成しております。

“お話を聞いて” “お勤めをして” “語り合おう!”  
真宗本廟奉仕に参加しよう!

真宗本廟境内には、全国から来られるご門徒と寝食を共にして真宗門徒の生活を学ぶ「同朋会館」があります。お友達と一緒に、真宗本廟奉仕にぜひご参加ください。皆さまのお越しをお待ちしています。

参加者の声



真宗大谷派門徒の家に生まれましたが、初めて真宗本廟を訪れ、祖父母の信心の中心がここにあったのかと圧倒されました。地元に戻った後は、推進員として所属寺の活動を率先して実践いたします。(70代・男性)

上山された団体(2025年11月)

※組・寺院名のみ

北海道 第9組後期教習、第9組正樂寺・専厚寺、第9組浄光寺 東北 青森県第2組蓮心寺、秋田県南組真樂寺・照樂寺、仙台組東漸寺 東京 東京1組、東京8組、東京真宗同朋の会、真宗会館友の会 新潟 第17組護念寺、高田13組浄泉寺同朋の会 富山 第3組 大垣 第17組蓮休寺、推進員連絡協議会 岡崎 第7組浄専寺、第14組安専寺 名古屋 第14組圓周寺、同朋会運動推進協議会「こころの会」 山陽四国 第6組正覺寺同朋会 九州 八女組八女第1ブロック門徒会、三井西組光桂寺、福岡組妙樂寺、久留米三井組、九州教区、九州大谷短期大学 開教区 ハワイ開教区 その他 全国教区門徒会正副会長協議会、泊まって学ぶ親鸞講座西月会、こぶし会

お申し込み・お問い合わせ

1団体5名以上でお申し込みください。個人でも参加できる奉仕団があります。(春の法要奉仕団、おみがき奉仕団、報恩講奉仕団、お煤払い奉仕団)



申し込み 冥加金

希望日の40日前までに、電話もしくは同朋会館ホームページから予約のうえ、上山される1カ月前までに申込書を提出ください。

〈2泊3日〉18,000円、米2kg(1升4合)または米代1,300円  
〈1泊2日〉13,000円、米1.2kg(8合)または米代800円

同朋会館・研修部  
TEL:075-371-9185

奉仕団の予約はこちらからできます



真宗本廟

開門・閉門時間  
3月~10月  
5時50分~17時30分  
11月~2月  
6時20分~16時30分

詳しくはこちら



東本願寺

検索

しんらん交流館

開館時間/9時~17時  
休館日/毎週火曜日  
(1階)カフェ シュイロイスト  
営業時間/9時~18時  
定休日/毎週火曜日

詳しくはこちら



浄土真宗ドットインフォ

検索

渉成園

開園・閉園時間  
3月~10月:9時~17時(受付16時30分まで)  
11月~2月:9時~16時(受付15時30分まで)

詳しくはこちら



渉成園

検索

大谷祖廟

開門・閉門時間  
5時~17時  
納骨・読経受付時間  
8時45分~11時30分  
12時45分~15時30分

詳しくはこちら



大谷祖廟

検索

読者のお便り

初めて読んだ『同朋新聞』



秋田県在住  
藤田 まゆみ(75歳)

お寺に生まれて、毎月どきどきと届いていた『同朋新聞』。読むことのないまま東京に嫁ぎ、秋田に帰ってきた時には、生家を出て50年が経っていました。お内仏に手を合わせる毎日の中で、あの新聞はなんだったん

だろうと考えていた頃、数年前に亡くなった友人のお墓を訪れました。そこでご住職に『同朋新聞』を手渡されました。初めて読んだ『同朋新聞』は懐かしいお寺での生活を思い出させてくれました。日々お寺に

来てくださる方々がいたこと、その方々からお米や野菜などさまざまなものをおすそわけいただいていたこと、本堂から聞こえてくる祖父の法話、そのどれもが特別なことだったと気がつきました。

祖父母や両親が守ってきたお寺、浄土真宗という宗教について興味が湧き、今では定期購読し、大切な心の拠り所となっています。これからも興味深く読ませていただきます。

お便り募集

『同朋新聞』の感想をはじめ、日々の思いなどをお寄せください。

宛先

Eメール/shuppan@higashihonganji.or.jp FAX/075-371-9211  
〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上る 東本願寺出版「同朋新聞編集係」

◆住所・氏名・年齢・電話番号を明記してお送りください。紙幅の都合上、掲載時は添削・抜粋させていただく場合があります。

東本願寺御用達

日下念珠店

〒600-8174  
京都市下京区烏丸通花屋町下ル  
電話 (075)351-6325  
フリ-FAX 0120-89-5255  
定休日:日曜日

帰敬式の肩衣を  
取りかえることができます

帰敬式を受式された時に受け取られた肩衣は、長くお使いいただいている間に傷んでくることがあります。所定の簡単な手続きで新しい肩衣を受けませんか。お手次ぎの寺院、または最寄りの教務所へお問い合わせください。

取りかえ(再交付)  
にかかる費用  
略肩衣  
3,000円



※開法ハンドバッグも新しいものを  
お求めいただけます 1,000円

縁  
えん

一納骨・帰敬式 同朋会館宿泊プラン一

納骨・帰敬式でのご参拝を縁に、同朋会館での生活を体験してみませんか?

宿泊可能日

縁ホームページもしくはお電話にてご確認ください。

冥加金

1人:10,000円/  
小学生以下:5,000円(1泊朝食付)

申込方法

宿泊日の30日前までに、縁ホームページもしくはお電話にてご予約ください。

お問い合わせ  
同朋会館・研修部

TEL:075-371-9185(直通) / FAX:075-371-9201  
E-mail:dobokaikan@higashihonganji.or.jp



あなたのお悩みお聞きます



東本願寺いのちとこころの相談室 075-371-9280 (毎週木曜13時~17時 ※祝日・行事日は閉室)

## 新連載



## 『同朋新聞』の最新号をメルマガにて配信します! 無料

しんらん交流館メールマガジンに登録いただくと、毎月1日に『同朋新聞』最新号の紙面PDFとウェブページ版の記事を配信いたします。このほか、本メルマガでは毎月第2・第4土曜日の朝に文章による法話をお送りしています。ぜひご登録ください。

家族や知人にも  
オススメください!

メルマガの  
登録は  
こちら



真宗本廟(東本願寺)では、参拝される皆さまをお迎えするために、  
毎日さまざまな匠たちがお仕事をされています。  
日頃は表立ってなかなか見えない東本願寺の日常を支える匠たちを紹介します!

## 読者への一言

儀式は私一人では成り立たず、準備や清掃を含め、儀式に関わるさまざまな人、参拝者によって一つの法要をつくります。そういう視点でご参拝いただけたらと思います。

大切にされていることはありますか?  
御影堂・阿弥陀堂の荘厳準備や清掃は誰でもできるわけではありません。仏具だけでなく、私自身も儀式中の荘厳の一部として、御影堂・阿弥陀堂に奉仕する気持ちを日々大切にしています。



お仏供をお下げの様子

3:00 起床(宿直時)、お仏供作り、清掃、荘厳確認  
6:30 清掃、晨朝準備  
7:00 晨朝(朝のおつとめ)以降、真宗本廟収骨や帰敬式の補佐(準備)、当番仕事や自己研鑽を行っています。

## 朝の流れ

参衆はどんなお仕事をされていますか?



写真は3升用の盛槽(お仏供を作る際に使用する円筒形の型)

## お東さん OHIGASHI インフォメーション

結願日中の  
ばんどうぶし  
坂東曲

## 月刊聞法誌『ともしび』リニューアル!

月刊聞法誌『ともしび』は、2026年1月号より判型・価格を変更し、より読みやすい誌面へとリニューアルいたします。

2026年1月号は池田勇諦氏による「『真実証』の現実義」を収載。  
1部 165円(税込・送料別)



年間購読のお申し込みや詳細はこちら

## 「子どもたちの真宗本廟奉仕!」のご案内

お寺や地域、家族単位などによる、子どもたちを中心とした真宗本廟奉仕。季節を問わずいつでもお申し込みいただけます。

東本願寺  
で  
遊ぼう!



詳しくはこちら

## 第63回大谷スカウト名誉奉仕訓練 開催案内

真宗大谷派の精神とスカウトの精神を深めることを目的に名誉奉仕訓練を開催いたします。当訓練は仏教章取得の対象となります。



大谷スカウトの  
仏教章



詳しくはこちら

開催日 2026年3月26日~29日

## 救援金を勧募しています

宗派では、「令和6年能登半島地震」に対する救援金を勧募しています。皆さまからの温かいご支援をお願い申し上げます。

救援金口座 郵便振替口座番号 00920-3-203053

加入者名 真宗大谷派

※通信欄に「令和6年能登半島地震」と記載ください。

救援金総額 248,636,328円 (2025年12月1日現在)

編集室  
だより

◆今号より真宗の教えと宗派情報の発信をさらに充実すべく、情報性・社会性・対話性・尊厳性・超越性を軸として、紙面拡大のリニューアルを行い、より読みやすいレイアウトに変わりました。既存のコーナーを活かしつつ、新たに、1面「英語で味わう正信偈の世界」、5面「『観無量寿経』序分に学ぶ」、6・7面「てらこや大谷」、10面「別院旅行」「他力の庭」「教えて住職!」、12面「東本願寺を支える匠」「地獄なアイツ」の8つの連載を開始しました。

◆リニューアルと聞くと、私は最初「お店の味が変わってしまう」のではないかと思います。代々継承されてきた秘伝のタレを変えるというと、これまでそのお店に慣れ親しんだ者にとってはただ事ではありません。しかし、『同朋新聞』のリニューアルは、「お店の味を変える」ということではなく、真宗の、親鸞聖人の教えを「味わう感覚を変える」のだと思いました。お寺の同朋の会や家族、友人同士の会話のきっかけに『同朋新聞』を読んでいたいただくと編集室もやりがいを感じます。ぜひ感想をお寄せください。(浅野)

真宗大谷派  
東本願寺  
shinshu Otani-ji  
Higashihongani-ji

宗派公式ウェブサイト内  
『同朋新聞』ウェブページを  
リニューアル!

ぜひ、ご覧ください!



スマホ、タブレットの  
画面に最適化させた  
デザインに!

紙面PDFと  
ウェブページ版の  
記事が見れます!※

記事ごとの  
バックナンバーも  
読めます!※



※2025年  
1月号以降

東本願寺公式ウェブサイトでも『同朋新聞』をお読みいただけます

同朋新聞

検索